

第5章のポイント

1. TTに関する実態調査から

- ・学習障害を意識したTTは行われていない。
- ・TTによりそれぞれの子どもの学習上のつまずきや課題についての教員側の理解が促される。このことは、学習障害にもTTが効果的であることを示唆する。
- ・TTにより学習障害の指導のノウハウが教員同士で共有される可能性がある。
- ・TTにより子どもの実態についての共通理解が高まり、そのことは校内支援体制の強化につながる。

2. 学習障害の実態把握と対応に関する調査から

- ・殆どの教育（特殊教育）センターは複数の心理検査を利用して認知能力を把握している。
- ・殆どのセンターは、学力検査を利用せず、担任との面接や子どものノート・作品等の日常的な資料を基に総合的に学力を把握している。
- ・校内委員会を設置している（または設置を検討している）小中学校があるのは3割のセンターである。
- ・専門家チームを設置しているのは3割のセンターである。
- ・専門家チームが各学校に出向くなど学校に対する直接的な関与が期待されている。
- ・将来的に期待される専門家チームの数は教育事務所ごとに1つである。